



「けやき」通信 **「こも木洩れ日」** (其の122)

社会福祉法人 九十九会

生活介護事業所「けやき」

〒299-4403 千葉県長生郡睦沢町上市場 693

☎ 0475 (44) 2888

障害者との出会いの体験 13

理事長 荒木直躬

大地はどこまでも広がり、武蔵野の雑木林の木々は芽を吹き、足下に花が咲き乱れ、自然は春を謳歌している。自然主義文学者の国木田独歩が『武蔵野は入間郡に残れるのみ』と述べている。その入間郡のまっただ中に広大な面積を有した知的障害児・者施設の職員であった。雑木林を切り開いて出来た施設であった。利用者は6歳からで、上の制限はなかった。30歳を超える人も居た。一生を送ることを前提に作られた施設である。

当時は、日本中どこでも重い知的障害の者は学校に入学できず、施設の中で義務教育に相当する教育を指導員と保育士が行っていた。最重度の障害者を対象にしていたこの施設も一人も入学出来なかった。施設に入所できない者は家にいるしか仕方がなかった。

利用者の居住のために五寮あり、一寮に25名の利用者が生活していた。そこに指導員と保育士併わせて4名が働いていた。私の配属先は重複障害者寮で、視覚障害に併せて知的障害を持つものが一番多く、聴覚障害者もあり、中には聴覚・視覚・知的と三重障害の人もいた。昼間はこの人達に学習及び作業指導をした。朝晩は寮での生活援助をした。

今後何回かで、この施設で出会った利用者の紹介して行きたい。

6歳のS君は北海道から来た。片眼は全く見えずもう片方は強度の弱視だった。物を目から3センチほどの位置に持って行くと、色とぼんやりとした形が見えるようだった。言葉は5語～7語位の単語のみだった。私が就職してから3ヵ月後に母親と遠い旅をしてやってきた。母親も両眼弱視だった。S君一家が住んでいたのは「宿所提供施設」で、貧しく住居のない家族を住まわせるものだった。

「うち等が住んでいた部屋は6畳の部屋でした。押し入れが一つ付いていました。この子と私は押し入れに寝ていました。その部屋にうち等と同じに子どもが一人いる夫婦者と、若い夫婦がいました。この人達には子どもはいませんでした」。

6畳一間に3家族。8人。それが社会福祉施設であるとは。

現行の法律では次のようになっている。

<生活保護法 宿所提供施設>

第二条（基本方針）（略）「宿所提供施設は、利用者に対し、健全な環境のもとで、社会福祉事業に関する熱意及び能力を有する職員による適切な処遇を行うよう努めなければならない。」

第三十一条（居室の利用世帯）「一の居室は、やむを得ない理由がある場合を除き、二以上の世帯に利用させてはならない。」
(次ページに続く)

宿所提供施設の居室面積の基準すら法律では規定されていない。

<一つの居室にやむを得ない場合には、二世帯以上住まわせてもよい>

<この基準が、利用者に対する健全な環境である>と私には読める。

これが、健康で文化的な最低限度の生活を保障すべき文化国家の法律と言えるのか。

S君の幼児時代は大変なものであったろう。S君を大切にしようと思った。

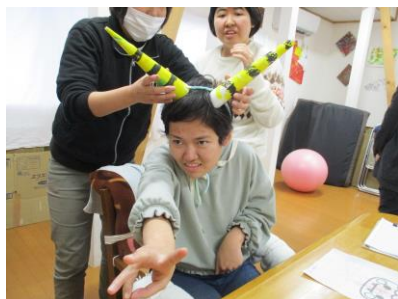
(続く)

～ けやき ミニ ギャラリー ～

① 2月 節分

2月の工作は節分にちなんで「鬼」を作りました。紙コップに毛糸の髪の毛、マジックやシールで表情を書き入れた様々な顔の鬼たちは個性豊かでかわいい物ばかり！節分のこの日、けやきでは等身大の鬼が現れたので、皆で豆まきをして鬼退治しなくては…しかし、手作りのこん棒を持って大暴れの鬼には笑顔が溢れており、節分の日に来てのは幸せを運ぶ良い鬼たちでした。この後、皆で豆菓子を食べ楽しいひと時を過ごしました。

(藤平)



② お疲れ様会

3/19(金)に一足早くお疲れ様会を行いました。例年だと外食(バイキング)に出かけていたのですが、コロナ禍の中けやき室内で行いました。昼食は睦沢町“おだか”でお弁当を注文し、くじ引きを行った後、ケーキを食べ、コーヒー、ココア、麦茶をそれぞれが飲みました。終始にこやかで皆さん楽しそうに過ごしていました。くじ引きの景品は家に帰ってからの楽しみという事で持ち帰りました。何が当たったのでしょうか？今年度無事に過ごせて良かったです。お疲れさまでした！来年度は自由に外に出られますように。

(丸)



③ 日々の活動より ほのほのアルバム～





～4月と5月の予定～

4月2日(金) 新年度開始日
29日(木) 昭和の日(休業日)

5月3日(月) 憲法記念日(休業日)
4日(火) みどりの日(休業日)
5日(水) こどもの日(休業日)

健康チェック週間 4月 : 12日(月) ~ 16日(金)
5月 : 17日(月) ~ 21日(金)

※その他の予定は、新年度迎え、決まり次第その都度ご連絡致します。

～職員退職・異動のお知らせ～

<異動> 日暮 舞 (生活支援センターつくも より けやきへ)
<新任> 鈴木 治子(看護師)
<退職> 丸 裕子 (看護師)
山田 友美

4月より新体制となります。宜しくお願い致します。

～ご寄付～

有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

・きょうされん(マスク、ビニール手袋)
・衣川 有紀子様(設備整備の為の寄付金)

コロナが私たちの生活を脅かしてから一年が過ぎました。終息が見えない中での生活は私たちの肉体の疲労のみならず、精神面、経済面でも不安を強めるばかりです。そんな中、一躍脚光を浴びたものがあります。それは長い髪にクチバシ、体に鱗、ヒレのようなものが三本の「アマビエ」という妖怪です。この「アマビエ」は熊本県の海から出現し、豊作や疫病を予言すると言われ、疫病が流行の際には、私の姿を写して人々に見せよと言い海に消えていったそうです。ただ「アマビエ」ではなく本来は「アマビコ」という予言獣ではないかと言われていています。見た目は全く似ていないようで、「アマビエ」は可愛く描かれていますが、「アマビコ」は三本足の猿のようなものでお世辞でも可愛いと言えず、1858年から1862年に全国で疫病が大流行した際には、三本足の「アマビコ」ではなく「アマビエ」の絵が沢山販売されていたと記述があります。

しかし、「アマビエ」と同じ予言獣として活躍した妖怪は他にもいます。女性の顔に角が二本、細く長い胴体の「神社姫」、上半身は女性で下半身は巻貝の「海出人」、人の顔をもつ「件」などがいます。「アマビコ」と同じく、可愛い外見ではないせいなのか「アマビエ」みたいに人気にはなりません。しかし、疫病から守ってくれる立派な良い妖怪には間違いないのです。

では、この妖怪達が有名になった年に何があったのでしょうか？それは世界的に大流行し、猛威をふるった疫病「コレラ」です。コレラは1822年に中国から沖縄、九州に渡ってきたと伝えられ、西日本では流行しましたが、江戸には至らなかったそうです。しかし、1858年にコレラの脅威が江戸に及びました。1853年、日本にとって転機となった黒船が来航し開国を迫った際にコレラも持ってきてしまったと考えられており、当時「コロリ」と呼ばれていたそうです。そしてこのコレラも妖怪の姿になっており、虎の頭部に狼の胴体、狸の睾丸を持つ妖怪「虎狼狸(コロリ)」が誕生しました。奇妙なもので「コロナ」と一文字違いというところにつながりがあるのではないかと考えてしまいます。

コレラだけでなく、昔から疫病に対しての恐怖を表そうとして疫病が妖怪になったものは色々あります。天然痘は疱瘡神や疱瘡婆、はしかは、はしか童子。大正時代に流行したスペイン風邪予防のポスターでも妖怪らしきものが描かれています。このポスター自体面白く、また標語もとても興味深いもので、「マスクをかけぬ命知らず」「テバナシにセキをされてはたまらない」「汽車電車人の中ではうがいせよ、外出の後うがい忘れるな」と少々過激なことを言っており、驚いたのは100年も前から現在まで予防法は変わらないことです。しかもポスターに描かれているマスクは立体的で黒色のマスクだったので、これも現代の若者がしているマスクにそっくりに描かれており、流行は廻ると聞きますが、まさかマスクまで時代と共に廻るとは思いませんでした。

話は逸れましたが、日本人は妖怪をどんなものより身近で親しみやすく、そして畏怖の念を抱いていたのではないのでしょうか。疫病を妖怪に見立て、これだけ怖いものと自覚をし、また対をなす疫病退散の妖怪が生まれたのは、見えない恐怖から怖がらずに立ち向かおうとしていたのではとと思っています。現代社会において妖怪などと言っていると笑われてしまいますが、科学が進歩しても解明されていないことがまだまだありますし、妖怪と想像してどうしたら退散してもらえるか考えると、少しだけ憂鬱な気分が晴れるような気がします。我慢を強いられ、生活様式も変わったこの一年。もうそろそろ「アマビエ」が本領発揮し、コロナが終息する時を願っています。

編集後記 今年度の『木洩れ日』、保護者様向けにはカラー印刷したものを配布させて頂くことが出来ました。以前よりもみんなの表情、その場の雰囲気伝わったのではないのでしょうか。(保護者様以外の方はHPをご覧くださいと思います。) 今年度1年ありがとうございました。(今野)